

V 教育研究計画

1 教育研究のテーマについて

研究テーマ

発見し、発案し、実現する力を育成する授業の創造

～ 総合的な学習の時間を核としたPBL学習を通して ～

(1) 目標と現状

【学校教育目標】

- ・豊かな心と表現力を養い、仲間と共に社会貢献できる、たくましい生徒の育成 ～自律・尊重・向上～ (昨年度)
- ・考え、表現し、自ら伸びる生徒の育成 ～ 自律・尊重・向上 ～ (本年度)

【昨年度の成果】

①振り返り活動の充実

- ・定期試験ごとに「テスト直し」を全教科で生徒に実施し、レポートやドキュメントで可視化した。
→ 全教科で取り組んだことで、共通の視点から生徒の「書く」活動が充実した。
- ・毎時間の振り返り活動にも着目し、R80を意識した授業改善を行った。また、「単元構想シート」や学校独自の「PDCA サイクルシート」を活用した授業改善を全教科で行った。
→ 全教職員で研修を行い、教科を越えて協議・共有することで、授業力の向上を図ることができた。

②ICTの活用の充実

- 教職員アンケートでは 63.7%が教育活動で生徒に ICT 機器の活用をさせており、生徒アンケート (1月)で 88.3%が ICT 機器の活用に対して肯定的回答をしている。

③補充学習の充実

- ・モジュール学習の時間を活用して、3学期から2学年を対象に数学に特化した補充学習を行った。
→ 難易度によって教室を4つに分け、生徒自身が自己決定して学習を進めることで、学習意欲を喚起することができ、実力テストの数値も向上した。
- ・学力向上部での放課後学習支援に加えて、長期休業中の学力補充 (サマースクール等) を設けて行った。
→ 組織的な学力補充体制がより充実し、特に低学力層に対する学び方の指導に成果があった。

【昨年度の課題】

- ・生徒は、考えをまとめたり分からないことを調べたりするときに、パソコンやタブレットを使っており、アンケートの肯定的評価は全体で 88.3%であるが、それが直接的な学力向上に結び付いていない。
→活用する時間は確保できたが、思考の深まりをアウトプットする場面の確保が不十分である。どのような形でアウトプットすることが「各種テストの点数アップ」につながるのかを研究していく必要がある。
→ICT機器の活用に対する教職員アンケートの肯定的評価は全体で 63.7%と低迷しており、教員側が活用の必要性をあまり感じておらず、特に授業内で生徒に活用させる場面設定の難しさが読みとれる。
- ・学校評価の指標とした、「実力テスト」の平均点が伸びない。
→家庭学習時間が0時間～1時間未満の生徒が 60.6%と約半数以上を占め、それゆえ学力が定着しづらく、反復学習や誤答をもとにした基礎学力を定着させるための学習や記述問題への取組が不十分である様子が読み取れる。
- ・学力向上部での放課後学習支援に加えて、長期休業中の学力補充 (サマースクール等) を設けて行った。
→ 実力テスト等の数値の向上につながらなかった。

(2) テーマ設定の理由

昨年度「基礎学力の向上」を目指し、授業改善を進めてきた。しかし、QUの結果から、全学年ともに「学習意欲」は全国平均を大きく上回っているにもかかわらず、その結果が「各種テストの点数」に繋がっていない現状がある。従って、この生徒の「学習意欲」を土台とし、生徒自らが学習する意味や意義を自覚しながら粘り強く学びを進めることを重点とし、総合的な学習の時間を核とした実践体験型のPBL学習を取り入れることとする。生徒自身が学習の中で課題を発見し、解決策を提案し、実現できるよう努力することができれば、どの教科においても、どのような問題にも粘り強く取り組んでいけると考える。

2 主な研究教科及び領域名

総合的な学習の時間

3 研究仮説

総合的な学習の時間を核とした実践体験型のPBL学習を通して、発見し、提案し、実現するための視点が生徒に定着して、生徒自身の力で使えるようになれば、どの教科においても、どのような問題にも取り組んでいくことができ、生徒にとって「主体的・対話的で深い学び」は「基礎学力」を高めることにもつながりがあるだろう。

【研究概要】

(1) 総合的な学習の時間を核として地域貢献やアイデンティティの確立に迫れる学習活動を目指す

①積極的に外部人材を活用する

- ・エナジードの効果的な活用や、xTReeEの導入、講師による出前授業等をカリキュラムに組み込む。

②単元の最後に、表現の場を設定する

- ・エナジードサミット又はNIE、プロポーザルを活用して、思考の深まりを提案する場面の確保をする。

③3年間を通した系統的な学習過程となるように進めていく。

- ・別紙1「R6 総合的な学習の時間 全体計画」参照

(2) 学力向上を意識した授業改善 ⇒基礎学力の向上を目指す

①各種テスト問題の積極的な活用を目指す

- ・(例) 定期試験ごとに「テスト直し」を全教科で生徒に実施し、レポートやドキュメントで可視化する。
- ・全体研修などで教科ごとに「学習分析事業シート」を活用して教員間の連携を図り、可視化する。

②振り返り活動の充実を目指す。

- ・(例) 授業の終末等でR80を活用して毎時間又は単元ごとに振り返りをさせる。

(3) 家庭学習の充実 ⇒基礎学力の向上を目指す

①教科での工夫：家庭学習を活かした授業づくり

- ・(例) 定期試験ごとに「テスト直し」を全教科で生徒に実施し、レポートやドキュメントで可視化。

②全学年の取組：実態に応じた「第G0ノート」の活用と点検 ※個の特性にも配慮する。

③平日の家庭学習時間の増加：30分未満を10%以下にする。

(4) 学力向上に向けた体制づくり

①学力向上に向けて、放課後やモジュール学習等を活用した学力補完体制の構築

- ・学年を越えた学び方の指導・支援、提出物管理の徹底などの体制をつくる。

(例) 学力向上部の活用

- ・ミライシード等のドリル教材に取組む時間の確保や難易度別の補充学習をし、基礎学力の定着を支援。

②研究主任と部活担当顧問を中心とした学力向上部など組織的な学力補完体制

- ・研究主任と部活担当顧問を中心とした組織的な対応から、生徒の自己肯定感の向上を目指す。

【全体研修】

(1) 講師招聘による研修 (草原和博先生 広島大学大学院 大学院人間社会科学研究科 教授)

- ① 理論研修 (4月)・まとめの研修 (2月)
- ② 研究授業・協議会 (年2回程度)
- ③ 授業参観：参観と講評 (全教職員に実施)

※ 回数をわけ、対象者を絞って実施

○課題発見・解決学習の単元で、ICT 機器を活用や子ども同士の学び合い等を取り入れた研究授業を全員実施する。

○各教科での学力向上検討会の実施 (学期に1度程度)

10月、1月の生徒アンケートや、定期試験、実力テスト、学習分析事業 (NRT・Hyper-QU)、全国学力・学習状況調査などの結果を踏まえ、各教科の教員で学力面についての反省や検討を行う。

4 達成目標

(1) PBL 学習を意識した総合的な学習の時間の実施

・総合的な学習の時間の授業アンケートに係る設問→肯定的回答を80%以上

設問内容 (例)

どの教科でも生徒自らが学習する意味や意義を自覚しながら粘り強く学びを進めるため、自分で課題を発見し、改善策を提案し、実現する力がついてきているかをみとるために…

「将来の夢や目標をもっている。」

「自分がやると決めたことは、やりとげるようにしている。」

「授業では、単元のはじめに、その単元でどのようなことをめざすのか、見通しを持っています。」

「授業では、「なぜだろう」、「やってみよう」と思うことがあります。」

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」

総合的な学習の時間が実践体験型のPBL 学習となっているかをみとるために…

「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある。」

「総合的な学習の時間では、積極的に仲間と交流し、協力しながら活動を進めています。」

「総合的な学習の時間では、課題を見つけること、計画すること、やってみたり、調べたりすること、まとめること、自分の言葉で発表することなど、自分から取り組んでいる。」

(2) 「基礎的・基本的な学力」の定着

- ・標準学力調査正答率における、校内平均と全国平均との比率を1 (100%) 以上にする。
- ・実力テスト等における、校内平均と全国平均との比率を1 (100%) 以上にする。

(3) 家庭学習の時間と質の充実

・生徒・教職員アンケート「振り返り」に係る設問→肯定的回答を80%以上

設問内容 (例)

「定期試験後に、テスト直し (誤答処理) レポートに取り組み、テストで分かったこと・分からなかったことなどの振り返りを行っています。」

「授業の終わりに、その時間でどのようなことが分かったのか、または分からなかったのかなどをまとめ、授業を振り返っています。」

・生徒・教職員アンケート「家庭学習」に係る設問→肯定的回答を80%以上

設問内容 (例)

「毎日、家庭学習 (宿題や塾、家庭教師、通信教育等も含む) に取り組んでいます。普段 (学校のある平日)、平均するとどれくらい家庭学習 (宿題や塾等も含む) に取り組んでいますか。」

「毎日、自分で課題を設定して自主学習 (宿題や塾、家庭教師、通信教育等を除く) に取り組んでいます。」

「普段 (学校のある平日)、平均するとどれくらい自主学習 (宿題や塾等は除く) に取り組んでいますか。」

5 年間スケジュール等

(2) 研究授業・協議会の体制

- A 全員での研修：教育研究に関わる全体研修・年間3回
- B 教科研修（指定研修含む）：各教科担当者が参加
- C 教育センターの研修受講：1人1講座以上

期 日	教科・領域等	研 修 内 容	指 導 者
4月10日	A：教育研究研修	ガイダンス・研究方針の確認	福澤 彦明 前田 直斗
5月29日	B：数学	授業研究 研究協議	市教委指導主事 福澤 彦明
6月12日	A：教育研究研修	各種テスト・アンケートの分析（NRT・QU等） 服務研修（R80・評価について） 運動会を終えて	前田 直斗 福澤 彦明 山垣内 智彦
6/17～6/25	個別	NRT・QU分析 ※の時間割の中で分析	各担当の先生方
6月14日	B：国語	授業研究 研究協議	市教委指導主事 池田 豊子
6月19日	A：教育研究研修	わたしたちの目指す授業について	小原友行先生（広島大学名誉教授）
7月10日 【全体研修】	A：技術	授業研究 研究協議 指導講話	草原 和博（広島大学教授） 市教委指導主事 前田 直斗
8月6日	A：教育研究研修	研究中間報告・まとめ→全国学テ・質問紙分析	前田 直斗
8月26日	生徒指導	生徒指導の心構え・体制づくり講話「」	細川先生
9月11日	B：保健体育	授業研究 研究協議	市教委指導主事 舩金 達生
9月18日	A：教育研究研修	各種テストの分析（全国学力テスト・実力テスト等）	前田 直斗
9月19日	B：数学	授業研究 研究協議	市教委指導主事 中尾 康二
9月27日	B：社会	授業研究 研究協議	市教委指導主事 兼定 亮太
10月3日	B：美術	授業研究 研究協議	市教委指導主事 村上 順子
9/30～10/4	A：教育研究研修	研究報告	森本 瑞穂
10月11日	B：音楽	授業研究 研究協議	市教委指導主事 榊宗 知子
10月16日	A：教育研究研修	自主公開研究会に向けて	前田 直斗
10月22日	B：社会	授業研究 研究協議	市教委指導主事 新出 美穂
10月30日	B：国語	授業研究 研究協議	市教委指導主事 松見 奈々子
11月6日 【全体研修】	A：総合	授業研究（自主公開研究会） 研究協議	草原 和博（広島大学教授） 市教委指導主事 川崎 とも子 満木 風也 山垣内 智彦
11月27日		事前研修	森本 瑞穂 全職員
12月6日	B：社会	授業研究 研究協議	市教委指導主事 河野 貴紀
12月11日	A：教育研究研修	各種テスト・アンケートの分析（実力テスト・QU等）	前田 直斗
12月11日	B：英語	授業研究 研究協議	市教委指導主事 兒玉 大弥
12月11日		事前研修	森本 瑞穂、全職員
12月18日	B：理科	授業研究 研究協議	市教委指導主事 佐々木 学
1月6日	A：教育研究研修	研究中間報告・まとめ	前田 直斗
1月8日		事前研修	森本 瑞穂、全職員

生徒の実態 ・明るく素直であるが、自主性が乏しい ・自意識が弱い ・他者受け入れの欠如	学校教育目標 考え、表現し、自ら伸びる生徒の育成 ～自立・尊重・向上～ めざす生徒像 社会のために役立つとする志を抱く生徒の育成	保護者の願い ・思いやりのある子 ・善悪の判断ができる子 ・粘り強く取り組む力のある子
-------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------

本校で育成しようとする資質・能力
【認識する力】 アイデンティティ・発見力 【選択する力】 思考力・調整力 【表現する力】 表現力・発案力

総合的な学習の時間の目標
探究的な見方・考え方を働かせ、PBL型の横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。 (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、探究したことよきさに気づき、その背景を理解する。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、積極的に社会のために役立つとする態度を育てる。

各学年の学習内容・指導の重点 (育成したい資質・能力)						
学年・テーマ	(1) 知識及び技能		(2) 思考力・判断力・表現力		(3) 学びに向かう力、人間性等	
	【認識する力】 アイデンティティ・発見力		【選択する力】 思考力・調整力		【表現する力】 表現力・発案力	
【第1学年】	防災① キャリア①	① 学び方や問いの立て方について、基礎的な知識を身に付ける。また、課題について、情報収集の技能を身に付ける。	② 既存の知識と新たな情報を適切に組み合わせ、それらを根拠に、効果的な学び方を考えることができる。 ③ 課題について、根拠を明確にししながら、学んだことを生かして自分の考えを表現することができる。	④ 学びを生かし、課題に対する自分の考えをもっている。 ⑤ 学ぶことの意義や理由について、他者と考えを共有している。		
【第2学年】	防災② キャリア②③	① 職場体験活動を通して、必要な礼儀や態度、マナーを身につける。 ② 防災に必要な情報を収集・整理し、表現する技能を身につける。	③ 収集した情報と体験学習で学んだことを整理し、「相手に伝わるコミュニケーション」について考えることができる。 ④ 自分のことばで具体的に考えや気持ちを表現できる。	⑤ 社会の一員として自分の役割を自覚し、自分の将来設計図を作成できる。 ⑥ 自分と異なる意見や立場を大切に、よりよい解決に向けて協力して取り組んでいる。		
【第3学年】	防災③ キャリア④⑤	① 進路選択に係る知識を身につける。また、進路選択に必要な情報を収集・整理し、表現する技能を身につける。	② 探究活動を通して自己を客観的に捉え、適性に合った進路実現のための方策を考えることができる。 ③ 進路選択について 情報を収集・整理し、自分の考えを表現することができる。	④ 社会に役立つための将来設計について考えている。 ⑤ 自己の課題を解決するために、他者の意見を参考にしながら自己理解を深めている。		

指導方法	指導体制	学習の評価
○体験活動と事前事後指導の充実 ○言語活動の充実 (→言語能力の育成) ○コンピュータや情報通信ネットワーク等を活用し、情報を収集・整理・発信する等の学習活動 (→情報活用能力の育成) ○考えるための技法 (比較する、分類する、関連付ける等) の指導	○教師間の連絡調整会議の実施 ○ゲストティーチャーの活用 ○関係機関との連絡調整	○評価の観点と評価規準の設定 ○生徒の変容の見取り ・制作物・ワークシートによる評価 ・授業の発言内容・態度による評価 ・振り返りによる評価 等

各教科
○各教科を通して、生徒が主体的・協働的に学ぶことができるように、学習課題と活動を工夫する。 ○PBL学習として、生徒が自ら課題を発見し、課題解決に向けて粘り強く探究していくことができるように、単元構想を行う。 ○教科の特性に応じて、学んだことのみをまとめを発表し、自分の考えを表現する場として、プレゼンテーションを行う機会を設定する。 ○各教科で身に付けた知識及び技能を相互に関連させ、社会の中で生きて働くものとして形成されるように、教科横断的な単元づくりを行う。

地域等との連携			
地域町内会との連携 地域施設使用への協力要請	地域の商工会議所や職場体験受け入れ施設との連携	中学校区内の幼稚園・保育所・小学校との連携	市内の各中学校との連携 近隣の各高等学校との連携